

命の尊さを共有しようとする努力

「平和は軍事力で達成できないことを私たちは見てきた。砂漠からよみがえった緑の大地に立つとき、文字通り地についての平和な感情に支配される。そして、この実感は座して得られたものではなく、命の尊さを共有しようとする努力の結実であることを知る」

——中村 哲 (ペシャワール会報84号・2005年より)

いかに耕し、いかに生き延びるか

2021年度現地事業報告

PMS(ピース・ジャパン・メデイカルサービス)総院長/ペシャワール会会長

村上 優まさる/PMS支援室

はじめに

アフガニスタンの人々の最大の苦難は干ばつによる飢饉ききんです。中村哲医師は、地球温暖化の脅威の現れとして、この地の干ばつを繰り返し訴えてきましたが、その声を国際社会は充分に聞くことはなかったのです。

二〇二一年の春、WFP(世界食糧計画)などは、アフガニスタン国民の半数二〇〇〇万人が飢餓に襲われると警鐘を鳴らし、当時のガニ大統領も六月には危機感を表明していました。

PMSとペシャワール会はクナール河流域の用水路事業を進めるとともに、アフガン全土への灌漑事業かんがいの普及を立案していたのですが、その矢先、八月十五日に電光石火でタリバン政権が復活しました。この政変に関しては様々な報道がなされました。

ただ、民衆——国民の八割以上を占める農民たち——が四十年近く続いた戦闘を忌み

嫌い、イスラム教の規範を最重要視するタリバンの秩序を受け入れたことは事実でしょう。人々の関心は「いかに耕し、いかに生き延びるか」という、平和な農村共同体の回復にあったのです。しかしその結果、アフガニスタンは経済制裁を受け、貧困と飢餓の危機が増大しました。

私たちは、目の前の命の危機に手をこまねいてはおられません。以前にもまして「水が善人・悪人を区別しないように、誰とでも協力し、世界がどうなるろうと、他所に逃れようもない人々が人間らしく生きられるよう、ここで力を尽くします」(中村哲、会報一二六号、二〇一五年)がペシャワール会/PMSの指針となりました。

ペシャワール会の会員・支援者は政変以後、増え続けています。皆様から寄せられる共感によって困難を乗り越え、事業を継続することができました。心から厚く御礼申し上げます。そして、危機に際して支えとなる中村医師に感謝します。

タリバン政権の復活

二〇二一年度の事業に関する詳細は後述の報告をお読みいただくことにし、ここではタリバン政権へのPMS/ペシャワール会の対応について述べることにします。

タリバンは、ソ連軍撤退後の内戦時代の一九九四年に発足し、二年後には北部地域の基盤はイスラム教の教義に忠実であることとです。アフガニスタンの農村は元来伝統的な生活を守っており、血族や部族などで構成され、自治性が強い社会でした。そのためタリバン統治と大きな摩擦はなく、多



政変後、ガンペリ農場でのトウモロコシの収穫(2021年10月18日)

くの貧しい農民たちは内戦が終結したことを歓迎したのです。一方、近代的な生活を享受していた都市住民や西洋の価値観を学び体験した人々はタリバンを忌避しました。二〇〇〇年にアフガニスタンはアルカイダを匿った「テロ支援国家」として国連より制裁を受けます。そして、二〇〇一年九月十一日のアメリカ同時多発テロに端を発して、同年十月には空爆を受け、一カ月後にタリバン政権は崩壊しました。ただし、その後も農村部を中心にその勢力は維持され、徐々に拡大していきます。

二〇〇一年以降は国際治安支援部隊ISAFに支援されて、アフガニスタン共和国が継続することになります。米国ブラウン大学ワトソン研究所の報告によれば、この二〇年間に二兆三三〇億ドルの資金がアフガニスタンに投入されたとのこととです。その多くは軍事費であったとしても、民生にもかなりの資金が流れたはずですが、その恩恵は一般の人々、特に貧しい農民には全く届いていなかったのが実状です。詳細な報告は将来に待つとしても、極端な富の偏在があったことは事実でしょう。その結果、外国軍の撤退と同時に、アフガニスタン首長国(タリバン政権)が復活しました。まだ国際的に承認を受けるに至っていませんが、実際には国家・行政機関として機能し、前政権から九七%の公務員を引き継いだとタリバン広報官は述べています。

欧米が最も問題視するのは「包摂的な政権ではない」「人権、特に女性の人権が守られていない」ことです。包摂的でないというのは、政府がほとんどパシュトゥン族で構成されていること、女性の人権に関しては、高等教育が妨げられていることが挙げられています。ことに欧米メディアでは女子教育に対して厳しい報道を目にします。二〇〇〇年の時には「テロ支援」の名目で制裁し、今回は「女性の人権」という見地から制裁を課しているようにみえます。

中村医師は「文明の名において、一つの国を外国人が破壊し、外国人が建設する。そこに一つの傲慢が潜んでいないだろうか」と、一方的な価値観でアフガニスタンを裁き、支配することに異議を唱えています。

二〇〇一年にバーミヤン仏跡をタリバンが破壊し国際世論が沸騰した時には、

「我々は非難の合唱に加わらない。私たちの信仰は大切だが、アフガニスタンの国情を尊重する。暴に対して暴を以て報いるのは、我々のやり方ではない。餓死者百万と言われるこの状態の中で、今石仏の議論をする暇はないと思う。平和が日本の国是である。少なくともペシャワール会PMSは、建設的な人道的支援を、忍耐を以て継続する。そして、長い間には日本国民の誤解も解ける日が来るであろう。我々はアフガニスタンを見捨てない。人類の文化とは何か。文明とは何であるか。考える機会を

与えてくれた神に感謝する。真の人類共通の文化遺産は、平和と相互扶助の精神である。それは我々の心の中に築かれるべきものである」(『医者井戸を掘る』)と語っています。

経済制裁と食糧危機

タリバン政権復活後、アフガニスタン中央銀行の資産九〇億ドルが凍結されました。日本からのPMS運営資金の送金はできなくなり、アフガニスタンの銀行に預金していたドルも引き出し不能となりました。その後、アメリカ財務省外国資産管理室は国際機関などからの抗議により、人道支援に關しては送金可能とする指示を出しましたが、実際の動きは鈍く、混乱しています。

外国からの送金は人道支援と認められたNGOに限られるため、アフガニスタンの企業や個人に対しては制裁が継続しています。その結果、失業、現地通貨アフガニの暴落、食糧価格の高騰は著しく、ウクライナ情勢も影響し、この三カ月間だけで小麦価格は二倍になりました。貧しい人々は、緊急食糧支援にのみ頼る生活となっています。

危機を乗り越えて

二〇二一年十月より様々な工夫をしてPMSへ送金してきましたが、今年の五月にはタリバン政権の指示により、アフガニスタン復興に寄与するNGOは銀行からの引き出しが一部可能となりました。昨年来、給

与の大幅な遅配に耐え、支出を抑え、農作物などの収益を事業費に充てるなどしながら、PMSは活動を続けてきました。PMSスタッフと日本の支援者・事務局が信頼し合っただけで危機を乗り越えてきたのです。その努力はバルカシコート堰^{せき}の完成などで報われました。干ばつや経済危機は今も重くのしかかっていますが、現地事業が軌道に乗って進んだばかりか、緊急の食糧支援も手掛けることができました。そのすべてに感謝し、以下に二〇二一年度の具体的な報告を記します。

二〇二一年度の概要

1. 医療事業

二〇二一年度は新型コロナウイルス・デルタ株が猛威をふるい、六月には診療所の受診数が五〇〇〇名を超え、酸素ボンベを買い足す状況となった。しかし、八月の政変後もワクチン接種が引き続き行われ、発症は緩和されてきている。

また、政変後の経済制裁により、全国的に医療崩壊が起きたが、PMSのダラエヌール診療所は治療薬を常に備え、遠方からの患者も受け入れて診療を継続している。

表1 2021年度 診療数及び検査件数

国名	アフガニスタン
地域名	ナンガラハル州
施設名	ダラエヌール診療所
外来患者総数	46,159
【内訳】 一般	38,644
ハンセン病	0
てんかん	643
結核	145
マラリア	2,957
外傷治療総数	3,770
入院患者総数	—
検査総数	9,227
【内訳】血液一般	1,326
尿	1,321
便	1,536
ハンセン病塗沫検査	0
抗酸性桿菌	102
マラリア	3,928
リーシュマニア	532
その他	482

地域で重きをなしてきた診療所は更に人々に必要とされている。

二〇二一年度の診療内容は表1の通り。
2. 灌漑事業

二〇二一年度の主な工事は以下の通り。

(1) バルカシコート堰

二〇二〇年十二月に着工した本工事は、今年九月に完工を予定している。

二〇二一年度は、昨夏の洪水を経た、堰や護岸、河道の変化等に沿った対策・施工が次の通り進められた。

① 湾曲斜め堰の完成(昨年度、仮堰として築造)

斜め堰は今年二月二十八日に完成。八月の政変で資金問題が発生したため、二カ月間の工事の遅れと工事再開後の重機の使用台数制限などが重なり、川の増水が始まったなかで危険を伴う工事になったが、二月末に完成にこぎつけた。堰が接続している砂

表2 堰の建設及び改修の経過と予定

堰の名称	場所	用水路長(km)		施工・実施期間								維持管理期間					
				'03~'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	
マルワリード堰	クナール州 ジャリババ	27	2022年 堰改修予定	堰造成						沈砂池 改修	主幹 排水路 建設	取水門 改修	再 ライニング 約1.5km	排水路 シギ分岐	A区 洪水橋周辺の整備 E区 洪水橋拡幅	再 ライニング 2km	堰改修、 取水門増設、 砂吐設置
シェイワ堰	シェイワ郡カレイ村	0.5	河道変遷	堰造成													
カマ第一堰	カマ郡上流域	0.35	堰の観察	堰造成										堰修復、 対岸護岸 一部補修			堰修復、 対岸護岸 一部補修
カマ第二堰	カマ郡下流域	1.05	堰の観察		堰造成							堰改修					堰修復、 対岸護岸 一部補修
カシマバード堰	ベスード郡 カシマバード村	0.25	河道・ 堰の観察			堰造成									堰修復		
タプー堰	ベスード郡タプー	0.7			堰造成						廃止、ミラーン堰に統合						
カシコート堰	シェイワ郡 カシコート村	2.5	マルワリード と連続			堰造成								護岸 一部補修	護岸 一部補修		
ミラーン堰	ベスード郡 ミラーン村	0.3	750m上流で 河道整備				堰造成							護岸 一部補修			堰修復
シギ堰	シェイワ郡シギ村	0.35	河道変遷				堰造成										河道整備
カチャラ堰	シェイワ郡カチャラ村	5.5	安定					堰造成	全域送水	排水路網と橋脚、護岸造成							堰修復
バルカシコート堰	シェイワ郡 バルカシコート村	0.3	建設中											既存堰 改修	測量	堰造成	用水路、 沈砂池造成
ゴレーク堰	シェイワ郡ゴレーク村		着手未定												測量	測量	
新規事業	コット郡 トカナイカンドウ村	調査中	湧水利用														測量、着工
ミラーン訓練所 (FAO共同事業)										訓練所建設	PMS方式 訓練	訓練・候補 地調査	候補地 調査	候補地 調査	候補地 調査	候補地 調査	
JICA共同事業				カマ郡・カシマバード ベスード護岸	カシコート堰	ミラーン堰	カチャラ堰								共同調査・ガイドライン作成		

※2019年度からのマルワリード堰改修計画は工事を延期、2020年度から再開。
 ※シギ、シェイワ堰については河道移動を観察、将来必要ならマルワリード堰流域に統合。
 ※カチャラ堰(マルワリードII)は2016年10月から2018年9月までJICA共同事業。2018年10月からペシャワール会単独資金による事業。
 ※ミラーン付近河道整備:ミラーン堰河道の流れを安定させるため、河道固定堰の建設を検討。
 ※ゴレーク堰事業は政変により白紙に。また対岸の村との護岸線を巡る対立問題があり、双方が合意に達するまでPMSは着手しない。

州には洪水による変動は見られていない。
 ② 堰の上下流に堆積した土砂の除去
 堰上流の河道に、土砂堆積がみられた。また、コンクリート製土砂吐き(=可動堰)下流側にも同様に堆積が発生し土砂吐きの機能が低下したため土砂を除去した。
 ③ 護岸工事
 交通路でもある堤は十分な幅を取り、締め固めをしながら護岸線三〇〇m地点以降の工事を石出し水制と柳枝工を組合わせて進行中。
 ④ バルカシコート堰近傍の渓谷に透過性の砂防堤建設
 稀な降雨により鉄砲水が発生し、土石流が既存用水路や農地に流入していた。鉄砲水の緩流化を図り、蛇籠や巨礫を使

用した透過性のある砂防堤(10・11頁の写真参照)を建設中。設置予定二五カ所中一六が完成。
 (2) マルワリード堰・用水路改修計画
 本事業は二〇一九年十二月から四年間の工期で開始された。
 二一年度は、用水路H区から四kmのソイルセメントによる床面ライニング工事(覆工)を計画していたが、資金不足により二kmに変更。同地点は砂の堆積が多いため再度測量を行なって勾配率を変更し、ライニングが施された。
 (3) シギ・ゴレーク堰計画
 二〇一九年秋に中村医師より打ち出された計画。PMSは二一年度内に着工の予定で、JICA、FAOと協議を重ねていた。またこの事業は「PMS取水方式」の普及活動の实地研修の場ともなり、干ばつ対策に取り組むアフガニスタンの技術者の人材育成をも目的としていた。昨年八月の政変で計画は白紙になったが、クナール河を挟んで対岸に位置するシギとゴレークでは護岸線について住民間の協議がまとまっていなため、PMSは静観する事とした。
 (4) 維持・管理(保全)事業
 昨年七月の洪水によりマルワリード用水路C区の河側護岸に洗掘が発生した。新た

に石出し水制五基を設置し巨礫による護岸の改修工事が完了した。

他の堰・用水路では次の作業が低水位期に行われた。

- ・取水堰の改修―カマ堰、マルワリードII堰、ミラーン堰、シギ堰
- ・用水路の浚渫作業―マルワリード用水路 H区・S区・T区・シギ分水路、カマ用水路

特記すべきは、マルワリード用水路H区以外の浚渫作業は流域住民により自主的に行われたことである。「中村哲医師が私たちのために尽力して造った用水路だから、自分たちで綺麗にしよう」と村々が発起した。

(5) 灌漑事業の普及計画

既述のシギ・ゴレーク堰計画に記した通り。当計画は白紙になったが、PMSでは次年度に新規灌漑事業を計画し、厳しい干ばつに被災している農地復旧のため普及活動を継続する。

3. 農業事業 ガンベリ農場

二一年度はガンベリ農場の生産物がPMS事業の継続に大きな役割を果たした。小麦や九月初旬のレモンの収穫、畜産では日々のミルクの生産、大量に植樹された樹木等からの収入で、診療所の薬品や工事現場の燃料が購入された。全てが賄えたわけではないが作業を継続する一助となった。

米は約四〇トン(四トン/ha)、小麦は約六〇トン(一・五トン/ha)の収量。他に柑橘類、玉ねぎなどを出荷。養蜂事業は改善の余地はあるが継続中。

干ばつ被災地への支援としてサツマイモの栽培に再挑戦。種芋の越冬が難しく工夫がいるが被災地への普及を試みる。

ガンベリ農場は未開墾地をわずかに残すのみとなった。自給自足を目指している農場であるが、人手不足で試験的な栽培も減少していた。そこで昨年七月、農業学校卒の人材を五名採用、農場での作業に就いている。

◎ 植樹

二〇二一年一月から十二月までの植樹数は四万二五四二本。二〇〇三年以来の総植樹数は一二三万六二〇一本となった。植樹の内訳は表3の通り。

政変により日本からの活動資金が送金できなくなった時、PMSは柳やユーカリを売却して資金を工面した。両樹木は伐採後の再生が著しい。

4. 緊急食糧支援

PMSは今年一月から二月にかけて、ナングラハル州の、アチン、ガニヘイル(シワリ)、ドゥールババ、デヒバラ、ダラエヌール、ナージヤンの各郡で、合計一八〇〇家族に食糧配給を実施。これも資金に制限があり、対象を栄養失調児や妊産婦のい



完成したガイドライン。PMS取水方式の普及のため、アフガニスタンでの活用が期待される。

る家族に絞って配給された。

ナングラハル州の保健局との協力で各郡の職員や配給地の長老方の協力があり、配給は順調に行われた。干ばつ被災のうえに経済制裁が重くのしかかり、失業者も多く、状況が整い次第、PMSは緊急支援として食糧配給を継続する予定である。

5. 現地との交流・その他

昨年の政変後、一時的に治安は不安定であった。五、六月のコロナウイルス感染の拡大もあり、邦人の渡航及びPMS職員の来日もしばらく難しい。現地の実情を知るうえでPMS職員との交流は重要である。二一年度は前年度同様、毎月のオンライン

表3 植樹本数(2003年3月から2021年12月まで)

種類	場所	2003~07年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	合計
ヤナギ	用水路の兩岸、河川工事	116,050	55,380	97,380	60,750	73,315	23,650	37,073	18,400	39,650	14,700	30,250	51,750	61,780	118,440	27,200	825,768
クワ	用水路土手	7,000	2,750	8,578	4,430	140	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23,190
オリーブ	用水路土手、オリーブ園	2,000	0	840	0	0	0	1,424	1,275	240	136	0	5	0	0	0	5,920
ユーカ	砂防林、護岸樹林帯	2,500	1,000	11,478	39,584	22,350	28,196	7,150	7,500	2,611	500	4,659	2,010	2,610	9,105	5,250	146,503
ピエラ	ガンベリ沙漠	0	300	600	1,165	165	2,083	175	75	0	0	0	0	0	0	0	4,563
ガズ	砂防林	0	15,100	71,300	14,356	9,887	22,317	3,573	780	265	0	0	0	2,000	0	0	139,578
シヤム	護岸樹林帯	0	0	0	0	0	0	4,614	1,400	2,000	6,270	516	660	2,350	6,000	2,210	26,020
ポプラ	ガンベリ沙漠	0	0	0	4,900	10,786	1,850	0	220	0	0	0	0	0	0	0	17,756
ハスギ	モスク、学校、公園	0	0	0	60	195	300	0	0	0	110	0	200	130	193	0	1,188
果樹	ガンベリ果樹園	600	0	0	193	0	6,034	5,283	9,185	1,458	1,822	4,348	4,884	509	405	7,678	42,399
その他		0	0	0	132	190	412	144	50	26	0	1,096	597	337	128	204	3,316
		128,150	74,530	190,176	125,570	117,028	85,134	59,436	38,885	46,250	23,538	40,869	60,106	69,716	134,271	42,542	1,236,201

会議を継続しコミュニケーションを図っている。更に灌漑事業では、日本側の技術支援チームと水利事業について密な協議を重ねて工事が進められている。

二〇二一年度の計画

二〇二一年度の継続である。

①バルカシコート堰事業では、用水路の完成、沈砂池、洪水通過橋の造設、堤防・護岸工事。バルカシコート村に隣接する溪谷に透過性の砂防堤造設。

②マルワリード取水門の間口の増設、これに接続する用水路五〇mを拡幅、コンクリート製土砂吐き(可動堰)の建設、巨礫による固定堰の調整、ブディアライ地区までの用水路床面のライニング。

③維持・管理(保全)計画は流域住民への技術伝授の一貫として継続される。また、今後着工する事業ではPMS取水方式の普及を念頭に立案され、PMS職員も含め人材育成に努める。

④ナンガラハル州コット郡で秋季より、新規事業を実施。作業地はスピングル山脈の麓に位置し、クナルル河からの取水ではなく、湧水を活用し灌漑を行う。

二〇二一年を振り返って

食糧配給に携わったジア医師を筆頭とす

るPMSの職員たちは、ジャララバード市内で食糧を積み込んだトラックに並走して配給地へ向かいました。二〇〇〇年〜二〇〇一年に井戸掘削をした方面でしたが、長い間治安が悪かったため、彼らは今回の配給にあたり、十数年ぶりに郡境を越えました。小麦や果樹、野菜等で全ての農地が青々としているPMSの活動地から赴いた職員たちは、農地の体をなしていない干上がった畑を目の当りにして驚き、配給に奮い立ちました。

昨年八月に外国軍とそれに関連する団体が撤退し失業者が急増しましたが、国民の九〇%が農業、牧畜業などを営むアフガニスタンでは、干ばつによっても失業し途方にくれているのです。中村先生が会報に書かれた言葉「他所に逃れようのない人々が人間らしく生きられるよう、ここで力を尽くします。内外で暗い争いが頻発する今でこそ、この灯りを絶やしてはならぬと思います」に私たちは幾度も奮い立たせられました。そして、多くの方々に励まされた一年でした。心からの感謝を申し上げます。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承くださいませよう、お願い致します。